

CAPSULE

共産党の志位委員長に辞任観測 後任選びで人材不足浮き彫り

共産党の志位和夫委員長が、周囲に辞意を漏らしているという。

昨年十月の衆院選で共産党は、議席を二十一から十二に減らして敗北した。公安関係者によれば、八十八歳になった今も事実上、共産党のドンであり続ける不破哲三元議長から繰り返し強く叱責を受け、それに嫌気がさしたのか、昨年末頃から「疲れた」などと周辺に辞意を漏らすようになったという。そして不破氏にも委員長辞任の意向を伝えた模様だ。

野党共闘を優先させる路線は不破氏からの指示。だが民進党の前原誠司代表(時)が、希望の党との合流方針を打ち出すことを予想するのは困難であり、志位氏にしてみれば「やってられない」といったところだろう。不破氏も辞任を認める考えだが、問題は後任の委員長人事。順当なら小池晃書記局長の昇格だが、不破氏が「小池君は少し軽すぎる」などと難色を示しているという。

このため、一九九〇年、三十五歳で非議員だった志位氏が、共産党のカリスマ指導者だった宮本顕治議長(故人)からいきなり書記局長に抜擢された時のような人事があるのでは、との観測も出ている。しかしこれといった候補もおらず党の高齢化と人材難が浮き彫りになっている。

麻生氏を嫌うペンス副大統領 原因は過去の「ナチス発言」

日米経済対話のトップを務める麻生太郎副総理兼財務相とマイク・ペンス米副大統領の不仲説が囁かれている。ペンス氏が麻生氏を一方的に嫌悪しているという。

同副大統領が平昌オリンピックの開会式出席の途上に来日した際は、夕食を取りながら意見交換を行い、カレン夫人の

浜離宮散策に麻生氏のちか子夫人が同行するなど、表向きには親密ぶりをアピールしているが、内実は真逆なのだ。

原因は、麻生氏の度重なる「ナチス発言」だ。同氏は二〇一三年に日本国憲法の改正を訴える文脈でドイツのワイマール憲法について触れ「ある日気付いたら、ナチス憲法に変わっていた。あの山口、学んだらどうか」と発言。昨年も、自らの派閥研修会で「(政治は)結果が大事だ。ヒトラーは、いくら動機が正しくてもダメ」と述べた。

ペンス氏は、イスラエルの建国を聖書の預言の具体化と信じるキリスト教福音派(エバンゲリカル)の信者であり、穏やかでいられるはずがない。

それ以外にも麻生氏の一方的な発言などについて、ペンス氏は不信感を抱いているとされ、両者の信頼関係や人間関係で交渉が進むシナリオは考えにくい。

戦線離脱した沖縄北方大臣 周囲に「辞めたい」と弱音吐く

二月十九日夜に言葉をうまく発音できない「構音障害」と診断され、軽い脳梗塞の疑いもあるとして入院した江崎鐵磨・沖縄北方担当相について、揣摩臆測が飛び交っている。



引退寸前江崎氏

二月に入ってからというもの、単なる言い間違いでは済まない国会答弁が相次ぎ、審議がしばしば中断していた。内閣支持率が五〇%前後で安定する安倍晋三政権のウイークポイントと見られていた江崎氏の入院だけに、「更迭に見えないよう、病氣辞任するシナリオでは」といった見方も出ている。

もともと、江崎氏の病状にウソはないようだ。江崎氏に受診を勧めたのは、同じ愛知県を地盤とする立憲民主党の赤松広隆氏だった。十九日夜に二人で食事をした際、「国会答弁でも言葉がうまく出てこない」とはやく江崎氏に、同様の症状で脳梗塞と診断された知人のいる赤松氏が、すぐに検査するよう勧めたのだ。現在の任期限りで衆議院議員を引退すると表明している江崎氏は、病気で弱気になったのか、国会審議でのストレスに耐えきれないのか、周辺には「早く辞めたい」と弱音を吐いているという。

京都府知事選挙の舞台裏 官邸に嫌われた「二人」の明暗

四月八日に投票が行われる京都府知事選挙。昨年十二月に不出馬の意向を表明した現職の山田啓二知事は当初、続投意欲もあつたとされる。しかし、「民主党政権時代に同党にしがばをふつた」として現政権に嫌われ、京都選出であり安倍晋三首相に近い西田昌司参院国対委員長代行らによって、五期目への出馬を阻止された(地元関係者と囁かれている)。

山田氏は二〇〇二年四月に府知事に就任し、十六年にわたってトップを務めてきた。兵庫県出身の旧自治省(現総務省)官僚だが、一年からは全国知事会長も担っている。全国知事会は「総務省の影響力が強い組織で、同省出身の山田会長は国側にとって都合がよかった」(知事会関係者)。このため、知事会長の後任選びも既に水面下で始まっているようだ。



まだまだか……(西脇隆俊氏)

一方、告示が迫る知事選では、復興庁前事務次官の西脇隆俊氏と弁護士福山和人氏の新人同士の対立構図となった。与党候補として出馬する西脇氏は、「旧建設省エースで将来の国土交通事務次官間違いなしと言われながら、最終盤で官邸に嫌われ復興庁に飛ばされた人物」(自民党関係者)。西脇氏にとって京都府知事となれば面目躍如である。しかし、官邸に嫌われた西脇氏が同じく官邸に引きずり下ろされた山田氏の後任になるのはなんと皮肉だ。

立憲民主党で「お家騒動」 醜聞議員の辞職求め女性議員が蜂起

野党で唯一堅調な立憲民主党でお家騒動が勃発している。元秘書の女性へのセクハラ問題が報じられ、無期限議員資格停止処分中の青山雅幸衆院議員(比例東海)に対し、女性地方議員たちが、議員辞職を求めて立ち上がったのだ。

呼びかけたのは、静岡県秋山博子焼津市議ら十人の女性市議や町議。二月上旬頃から活動を本格化し、青山氏が国会に登庁するのは「国会議員としてあるまじき不誠実の極み。居座り続けることは断固許せない」と訴えている。

この市議らは、東海四県の女性地方議

員四百五十人にも賛同を求めており、党本部にも強く働きかけていく方針だ。

青山氏は、枝野幸男代表と同じ東北大出身で弁護士仲間でもある。党幹部は「青山氏がけじめを付け、ほかに同様の疑惑がなければ、頃合いを見て復讐させたい」と楽観視していた。それだけに、女性議員の「蜂起」は想定外だったようだ。

この動きを受けてか、青山氏は、元秘書の女性と「和解した」と一方的に公表したものの、セクハラ事実の有無についてはなお明確にしていない。

同党にはセクハラに煩そうな女性議員がそろっているが、いまのところ青山氏への厳しい意見は地方だけで出ている。党首の盟友を忖度しているのだろうか。

実業家として花開く亀井静香氏 晶風の料亭復活に奔走

亀井静香元金融担当相が長年晶風にしてきたことで知られ、亀井氏の議員引退に合わせるかのように昨年静かに閉店した東京・赤坂の料亭「外松」が、二月に同じ赤坂で新装オープンした。

ぶぐ料理で知られていた元の外松には、亀井氏がほぼ毎晩訪れ、同氏の「奥座敷」ともいわれていた。しかし、「料亭政治」が過去のものとなる中、外松は昼間のラ



意外な才覚あり

ンチ弁当販売も行って経営を維持させていたが、他の料亭と同様に時代の波には逆らえなかった。

新しい外松には、亀井氏が出資者として参加。店頭には同氏自らが揮毫した看板も掲げられた。敷居を下げて「一見」でも入れるよう価格を下げたメニューも用意しているという。

亀井氏が設立に関わった警備会社「ジエイ・エス・エス」の経営も順調のようだ。羽田など国内主要空港の警備業務をはじめ、最近流行の危機管理のコンサルティンクなど確実に事業を拡大させている。同社については「亀井氏が警察庁OBで運輸相経験者という立場を最大限利用している」という陰口も聞かれるが、「実業家・亀井静香」はなかなかの勢いだ。逆に、政治活動は今ひとつ。議員引退後から北朝鮮への訪問に並々ならぬ意欲を見せているが見通しは立っておらず、永田町では冷ややかに見られている。